

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

2017年のドル/円相場に関しては、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に、FRBによる3度の利上げ予想を背景にしてドルが底堅い動きとなるシナリオをメインに考えてきました。

【ドル/円 週足】



さらに、トランプ大統領が大統領選中に主張していた経済政策が実施されれば、米国経済成長は一段の加速となり、ドルの上値余地も大きく広がる可能性を考えてきました。

ドルの下値に関しては、当面110円、これを割れても108円水準までであり、110円以下は長くは続かないとの見方をしてきました。

しかし、4月17日にドル/円は108円13銭まで下落しました。

急速に円高に振れた要因は二つあり、ひとつは米国のシリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりであり北朝鮮に対する米国の強硬な態度が挙げられます。二つ目は、再びトランプ大統領が「ドルは高すぎる」と為替市場に直接言及してきたことです。

この二つにより、市場の見方は大きく転換してしまい、ドル買いポジションを調整する動きに繋がりました。

しかし、北朝鮮問題は長期化の様相となり、初めての日米経済対話を無難に乗り切ったことで、市場の目は米国の良好な経済指標やトランプ政権の税制改革への期待へと移ったことで110円を回復する動きとなりました。

108円割れを回避できたことで、ドルの底打ち感も出ており、米政権の税制改革やそれを受けた米経済をにらみながら、ドルは緩やかながら底堅く推移する可能性が高まってきました。

ドル/円相場のトレード戦略

■ 短期展望

先週は、週初はフランス大統領選の結果を受けた不透明感の後退からドル買いとなり、大きく窓を開けて110円台でのスタートとなりました。

その後も、米国の良好な経済指標やトランプ政権の税制改革への期待からドルは上昇を続け、111円台を回復し111円78銭まで上昇する動きとなりました。

今週は、東京がGWで参加者が少なくなるため、薄い商いのなか波乱の可能性には注意が必要でしょう。

波乱が起きなかった場合は、週末の米雇用統計を控えて、110円～113円のなかで揉み合う可能性が高いでしょう。

米国経済の良好さと地政学リスクの綱引きでドル/円は一方向に動きにくい状況が続きそうです。